

今、何の病気が流行しているか！

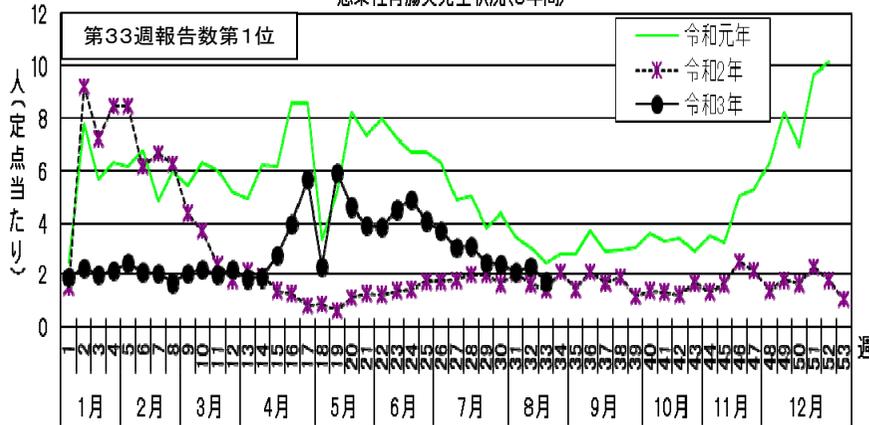
【感染症発生動向調査事業から】

令和3年8月16日（月）～令和3年8月22日（日）〔令和3年第33週〕の感染症発生状況

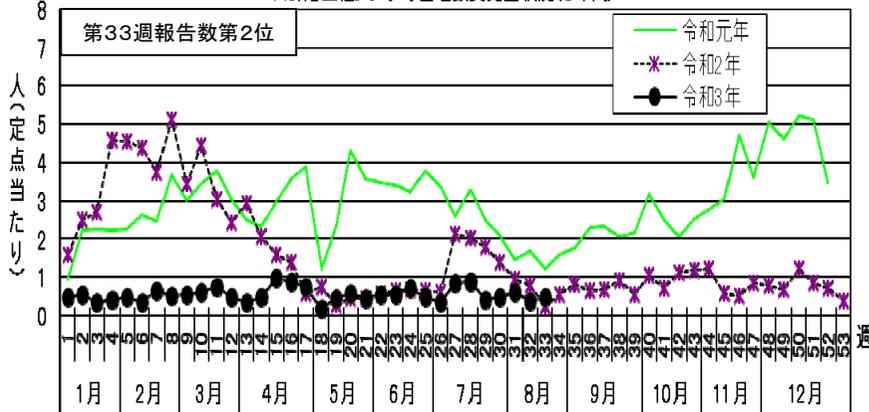
第33週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・突発性発しんでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.75人と前週（2.30人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.50人と前週（0.37人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.50人と前週（0.26人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



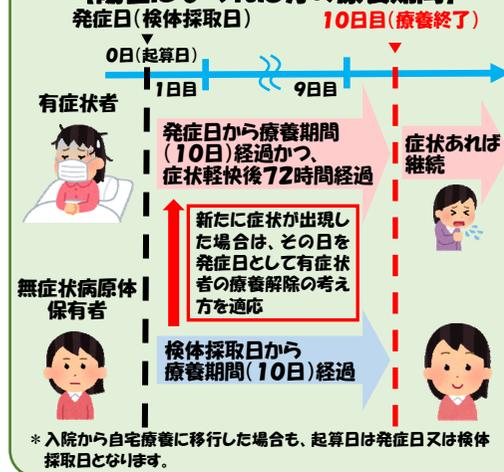
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



新型コロナウイルス感染症～自宅療養の際に気を付けるポイント～

新型コロナウイルス感染症患者の急激な増加に伴い、自宅で療養する方も急増しています。自宅療養の際には感染者を可能な限り隔離した上で、同居者もマスクの着用を必須とし、こまめな手洗いや定期的な換気、共用部分の消毒等の予防対策により感染リスクを減らしましょう。家族については、1回でもワクチン接種をしていると感染を半分に減らすことができるといわれています。新型コロナウイルス感染症は、発症日から10日間経過し、かつ症状軽快後72時間経過すれば、通常は他者への感染リスクはなくなるとされています。この期間は予防対策の徹底を心がけてください。

【陽性になられた方の療養期間】



【自宅療養時に御注意いただきたいこと】

感染者の部屋を分ける	同居者もマスクをつける	定期的に換気をする	汚れたシーツ、衣服等を洗濯する
感染者の世話に限られた方で	こまめに手洗い、手指消毒をする	手で触れる共有部分を消毒する	ゴミは密閉して捨てる

厚生労働省「ご家族に新型コロナウイルス感染が疑われる場合 家庭内でご注意いただきたいこと～8つのポイント～」より作成